

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 よつば)

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所グループホームかほく		
所在地	〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 1 日	開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域の中で、その人らしく安心して、楽しく笑顔で生活できる、温かみのあるホームを目指します」というグループホームかほくの理念に基づき、よつば棟では「笑顔たやまず、和気あいあいとみんなて安らぐよつば」を合言葉に入居者様一人ひとりがその人らしく生活していけるように心がけ、日々の生活に張り生きがいをもってもらえる様に日々の業務を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 12 日	評価結果決定日	令和 2 年 12 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所の理念とユニットごとの心得を作成し、毎朝の申し送り時に唱和し、理念に沿ったケアが出来る様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウイルスの関係で地域のロータリーの花壇の花植えや草むしりには参加できませんでしたが、ロータリーの花植えで余った分を分けてもってきて下さった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	河北町健康フェスティバルに参加し、事業所での取り組みをパネルで紹介したり、利用者様の作品展示を行い、発信している。また、介護相談等も随時受け、情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議の開催が1、2回目は資料配布によるものとなり、9月に第3回の運営推進会議を開催している。、町職員、町内会長、民生委員、ご家族代表に参加頂き地域の情報や、質問、意見を聞き、そこで得た意見を事業所の活動に活かしていきたいと思っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はコロナウイルス感染症予防の為の情報や、マスクや予防衣、グローブや消毒用品などの在庫状況等メールや電話での情報提供を行いながらサービス提供に支障が無いように協力して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について事業所内で研修を行い、身体拘束の具体的な行為や、弊害について理解を深める様に努めている。また、身体拘束廃止委員会を設け職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について理解を深めるため、研修に参加している。入居者の生活状況や身体状況について毎日の申し送り時に確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記の事業・制度を利用している入居者がいないため、実際に知る機会がほとんどない。内部研修を行い、知識を得る機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には専門用語は出来る限り使わず、丁寧で分かりやすい説明を行い、疑問点などは随時返答している。解約・改定の際にも丁寧な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のお便りにて入居者の様子をご家族様に伝えると同時に、意見を聞き施設の運営に反映させている。玄関の「意見箱」の設置など意見を出しやすい環境づくりに努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、管理者は職員から意見を聞き施設運営に反映させている。管理者は月1回法人のブロック会議に出席し、自事業所で出た意見・提案をブロック長を通じて代表者に届くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況、体調面、意向の確認などを定期的に行っている。介護支援専門員など資格取得などのサポートを積極的に行っている。毎年の昇給等で職員の向上心維持に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画があり、月1回テーマに沿った研修を行っている。今年度は外部研修には参加出来ていないが、WEBセミナー等の情報提供を行い研修を受ける機会を確保できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会に加入し交流の機会を持てるような体制を整えているが、今年度は交換実習などは中止となっている。当法人内でも各委員会や研修の開催により職員同士のネットワーク強化につながっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時にご本人とご家族から聞き取りを行い、担当ケアマネから得た情報と総合することで、入居時の不安を軽減し、少しでも安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にご家族から不安や悩みについて聞き取りを行い、今後の具体的な支援について共に考え、良好な関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時から行う聞き取りを通じ、必要としている支援を見極め、入居時に他のサービスも必要とされる場合には、その情報提供を行い、柔軟な対応が出来る様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの入居者の出来る事を考慮し、テーブル拭きや洗濯物たたみ等の家事作業を行ってもらい、共に生活しているという気持ちを持つ様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の気持ちに寄り添い、両方の意見を聞きながら良好な関係が築けるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は面会制限などもあり、これまでのようには面会出来ていませんが、しっかりと対策を取り、時間制限を設けての面会を行っており、家族間の絆を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が自分の能力や個性を発揮できるよう声掛けをし、家事作業を通して和やかな人間関係が保てるよう努める。時にうまくいかない時は間に入って橋渡しをする。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設に入所された場合等、折を見て面会にい行く等、支援相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、本人の思いや、意向を聞いたり、汲み取ったりしている。困難な場合には家族に確認し、反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「人生の歩み」という生活歴や趣味、施行等を記述する。書面を提出頂き、入居者の理解に役立てて行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日一日どのように過ごされたか介護記録に残し、申し送りで情報の共有をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族からの要望、状態の変化等あった場合には、話し合いの機会を設け、現状に合った介護計画となるよう変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気付きでも細かく記録し、申し送りを行い、ケース会議で担当より意見を出してもらい、ケアの実践にいかしている。必要時には、計画の変更もを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>今年度はコロナ感染対策の為、地域の方との交流は出来ていないが、小学生ボランティアの作品を頂いたり、河北町健康フェスティバルへの作品展示などへ参加している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人とご家族が希望する医療機関で受診できるよう体制を整えている。受診時には、書面等で日頃の様子をお伝えしている。必要時にご家族様と共に同席するようにしている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の看護師の巡回があり、利用者様の健康状態の把握を行い、状態の変化があった際にはすぐに助言を求められる体制づくりをしている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様の入院時には医療機関、ご家族様と密に連携を取り、情報共有を行い、安心して治療できるよう努めている。また、協力医療機関、近隣の医療機関と密接な関わりを持つよう心掛け、関係づくりに努めている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に重度化した場合の指針をご家族様に説明をし、同意を得ている。可能な限り当事業所で生活出来るようご家族様や医師と十分に話し合いを行いながら対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて定期的に心肺蘇生法やAEDの使い方について消防署から講師を招いて研修を行っているが、今年度は、内部研修のみとなっている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害・避難訓練を実施している。災害時に備えて食料の備蓄確認、ハザードマップの把握を行い、災害時に備えている。地域との協力体制について、まだ十分とは言えないが、避難訓練において通報訓練の依頼をしており、協力体制作りを行っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう配慮しながら、笑顔でその場に適した言葉遣いや対応を行っている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望や思いをじっくりと聞き、希望や思いに沿った支援が出来るよう働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、その都度確認しながら、その人に合った生活を送れるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合った衣類を用意し、着ていただいている。また、出張で来てくれる理容師さんから、髪型についての希望を聞いて、散髪してもらい、気持ち良く過ごせるよう支援を行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月の行事食やバイキングを行ったり、誕生日の方の食べたい物を取り入れたり、食事の時間が楽しくなる様工夫している。入居者様から、テーブル拭き等手伝っていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に合わせて、お粥やご飯、刻み食やミキサー食の提供を行い、必要な栄養が摂れるよう工夫している。水分量も声掛けを行ったり、小まめに水分補給を行い必要量摂取できるようにしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、口腔内の状態確認を行っている。毎食後の口腔ケアは、自立や介助にて1人ひとりの状態に合わせたケアを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄のパターンを把握し、声掛け、誘導を行い、出来る限り、トイレでの、排泄が出来るよう支援し、失敗を減らす努力をしている。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と共に、体操やレクリエーション等で体を動かして頂き、便秘予防に取り組んでいる。排便の状況に応じて担当医師に相談し、下剤等を使用し、対応している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望や体調に合わせて入浴支援を行っている。好みの湯温に調整したり、入浴剤の使用などの工夫を行っている。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の習慣、体調や希望等、その時々状況に応じて、休息や、睡眠をとって頂くと共に、寝具の清潔保持や居室内の温度等にも気を付けている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が薬の処方内容を理解し、薬の変更があった際にはタブレットや申し送りにて周知し、情報の共有化を図り、服薬後の、症状の変化の確認、記録を行い、次の受診時の情報提供を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの出来る力に応じて家事作業を行って頂いている。各々の生活歴に沿った支援を行うことで、役割や生きがいになっている様子も見られている。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>例年は様々な外出支援を企画しているが今年度はコロナの影響もあり、外出は控えている。</p>			
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を自己管理されている方もおり、その事で精神的に落ち着くように支援している。自己管理が難しい方に関しては金庫にお金を預かっている。以前は職員と共に必要なものを買に出かけたが、最近の情勢の為、本人の希望を聞き、職員が購入している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>面会が制限される中、電話や、手紙を用いることは利用者様とご家族様とを繋ぐ重要なツールとなっている。各々お希望に応じて、電話で話をする等、対応している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日掃除を行い、清潔を保つように心掛けている。季節に応じた飾りつけを行ったり、花を飾ったり、利用者様の作品や塗り絵を飾ったり、写真を飾る等、居心地の良い空間作りを心掛けている。</p>			
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士、仲良く過ごせるよう、関係性を見ながら、対応している。テレビも後ろの方が見ずらいような食席になるように工夫している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族様にご協力いただき、使い慣れた家具やテレビ、寝具を持参して頂いている。使い慣れたものに囲まれることで住み慣れた環境に近づけ、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、名前の書かれた表札を掛けており、自らの暮らす場所である事の愛着が持てるよう支援を行っている。安全に配慮し、清潔で整頓された環境作りを行い安心して生活できるよう支援している。		